



STRAPLINE HERE IN CAPITALS AND ON ONE LINE

Marine Stewardship Council

**東京五輪調達コード基本原則
とMSC認証制度**

MSC日本事務所 石井幸造



調達コード基本原則とMSC認証制度(1)

持続可能性に配慮した調達コード基本原則(東京大会組織委員会)

- (1)どのように供給されているのかを重視する
 - (2)どこから採り、何を使って作られているのかを重視する
 - (3)サプライチェーンへの働きかけを重視する
 - (4)資源の有効活用を重視する
-
- 上記4つの原則のうち(1)から(3)については、MSC、ASC認証での対応が可能
 - MSC、ASC認証取得、取得に向け動き出している日本の漁業も増加(=東京大会での日本産の水産物の供給も可能)
 - 調達基準への適合度によって優先順位をつける方向が望ましいのではないか。
 - 東京大会を一つのきっかけとして日本の漁業管理の改善、水産資源の回復が進むことが最重要



調達コード基本原則とMSC認証制度(2)

(1)どのように供給されているのかを重視する

- ・ 強制労働により起訴された企業、漁業は、MSC認証の適用範囲外
- ・ Center for International Environmental Law(CIEL)により貿易障壁には当たらないことが確認されている

(2)どこから採り、何を使って作られているのかを重視する

- ・ 持続可能で環境に配慮した漁業の認証制度として世界的に最も認知され、国際的に広がっている
- ・ フランス政府(France AgriMer)によるエコラベル制度の評価ではMSCがFAOのガイドラインに合致する唯一の制度であるとの報告(2009年4月)

(3)サプライチェーンへの働きかけを重視する

- ・ トレーサビリティを保証するためのCoC認証制度も有する(世界で3000社以上が認証を取得)

MSC認証取得漁業



287 の認証取得漁業

92 の認証審査中漁業

認証取得漁業による漁獲量は
世界の食用向け天然魚漁獲
量の約9%(約900万トン)



世界の白身魚漁獲量の
約46%がMSC認証のもの



世界の天然サケの約50%が
MSC認証取得もしくは審査中
の漁業で獲られたもの

日本におけるMSC漁業認証の動向

認証取得漁業

- 京都府機船底曳網漁業連合会(アカガレイ)
(2008年9月)
- 北海道ホタテガイ漁業(2013年5月)
- 南三陸のカキ養殖がASC認証取得(本年3月)



審査中漁業

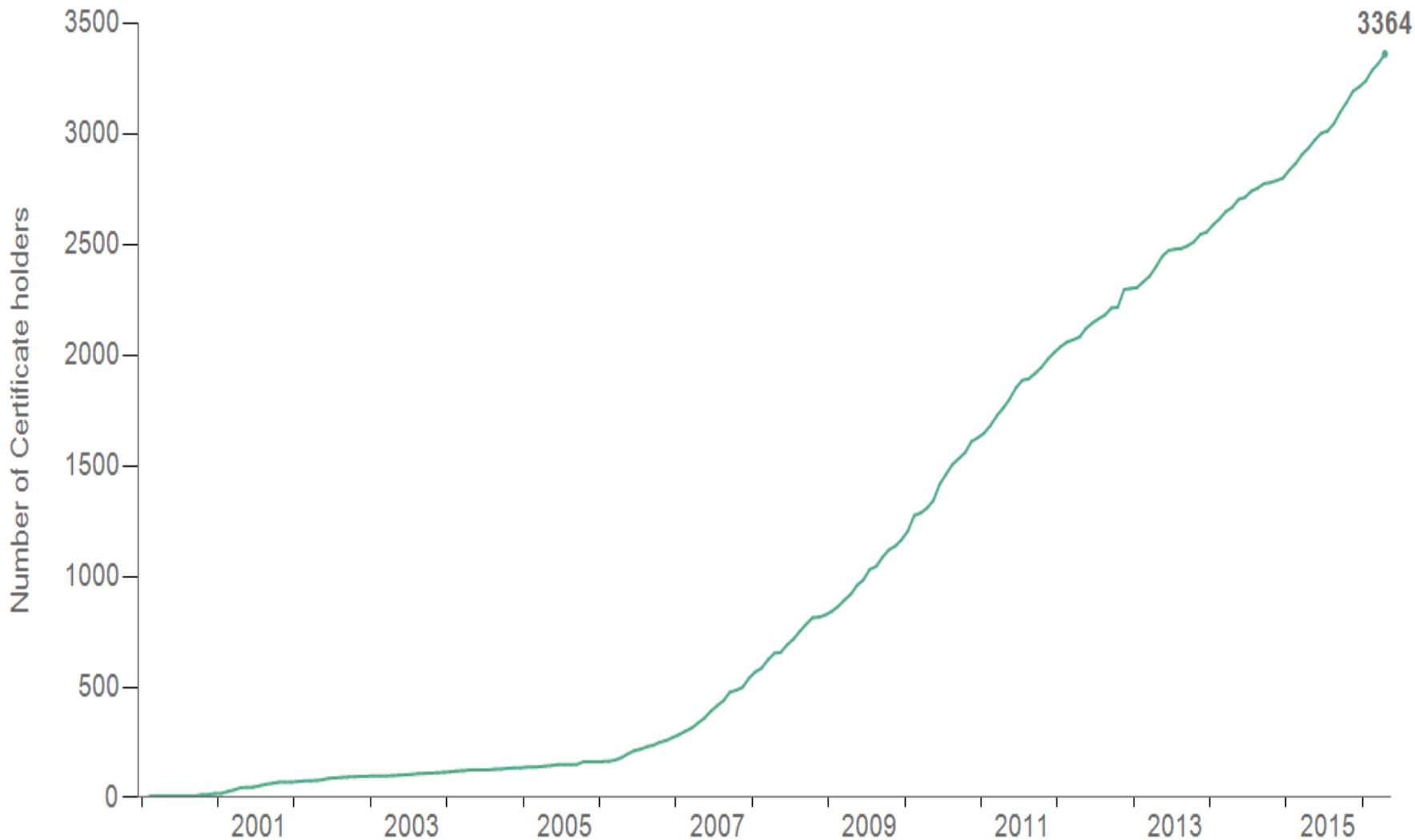
- 明豊漁業カツオ・ビンナガマグロ一本釣り漁業
(2016年8月審査完了見込み)

予備審査

- 3漁業(7魚種)が予備審査完了
- 6漁業(6魚種)が予備審査ほぼ完了
- 3漁業(6魚種)が予備審査入り準備中

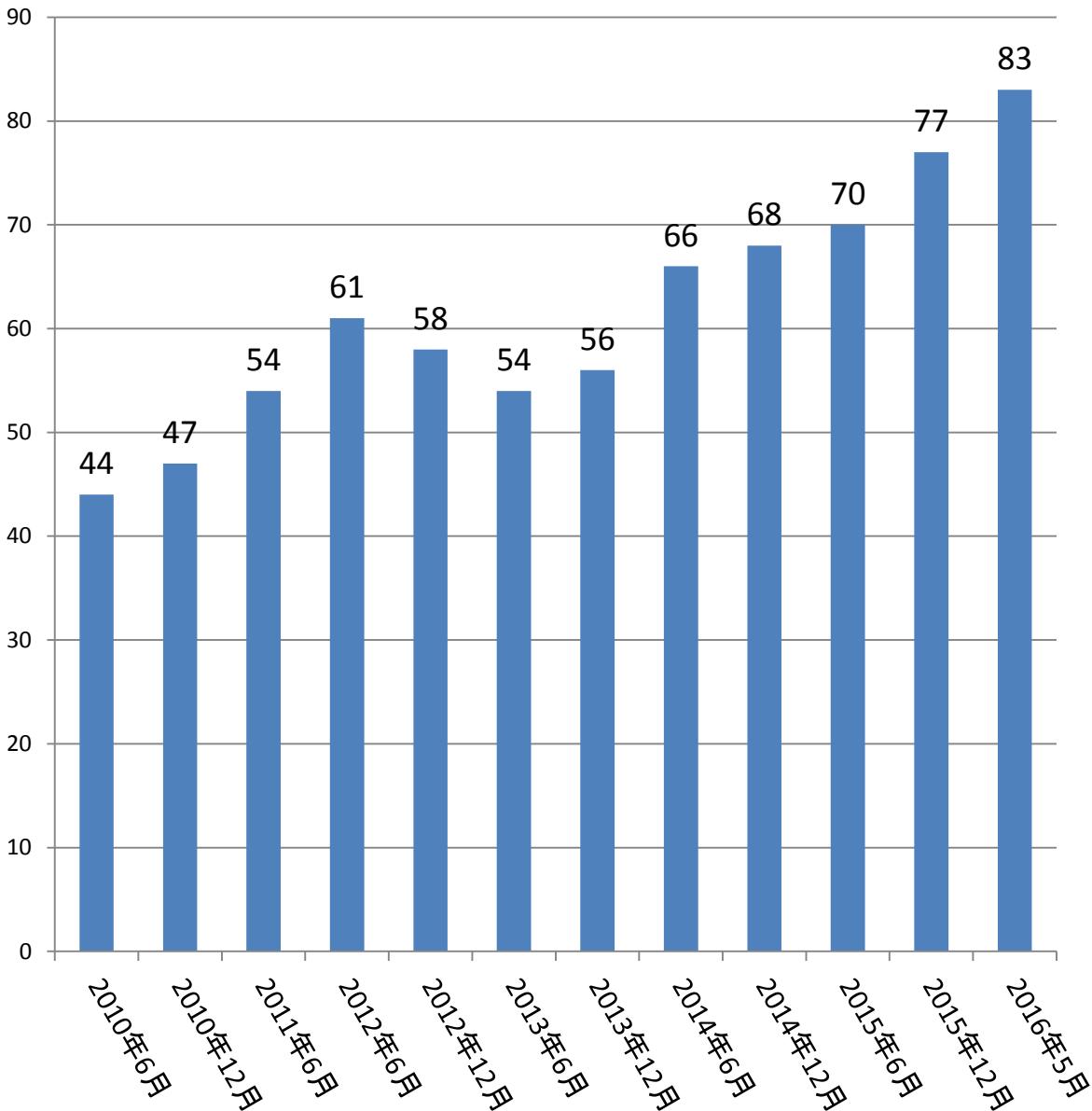


世界におけるCoC認証取得企業数の推移





日本におけるCoC認証取得企業数の推移



AEON

MARUHA NICHIRO

ONISSUI

キョクヨー

NICHIREI

Marubeni

HK

HANWA CO., LTD.

NICHIMO

ヨコ レイ

IKEA

中

東市

大手企業のみならず、
中小企業も認証を取得